何かを知ってる事と理解している事との違い

とある物理学の講義にて、教授の運転手であった男は毎回、講義に立ち会った事により、講義を丸ごと暗記しました。そこで運転手は教授に言いました「私はあなたの講義を暗記し理解しました。ですので、一回、私講義をさせて頂けませんか？」と。教授は承諾し、運転手は見事に講義を遂行しました。そして、講義の終わりに教授の正体が運転手と知らない、一人の生徒が手を上げて質問しました。「OOについて例えなどを踏まえて、より深く説明してくれませんか？」と。運転手は答えました。「そ、そ、そんなのは簡単な質問だ。あそこに居る私の運転手が答えてくれるだろう」と。それ以来、運転手は講壇に立つ事は無かったとか。

運転手の物理学に関する理解は子供用のプールのように浅くかったのに対して、物理学の教授の理解は海のように深かったと言うお話しで、あらゆる物事の浅い部分だけを削り取って、理解したと思っても、応用問題が来たら手も足も出ないと言うわけです。

何かを暗記する事も同じ理論で、暗記した所で理解していなければ、それを応用して使う事が出来ないわけです。スポーツとは違い、学問は特に暗記しているだけでは、学校の試験までがその知識を使える限界になるわけですから。

多くの見せびらかすための物知りや雑学君なんかもそうで、掘り下げたら、空っぽ、まるでコーンの下までアイスクリームが到達していない、アイスクリームの如し。上辺だけを取り繕って、その下は空洞状態、まるで耐震偽装をしたマンションの如し。

別に数学者や物理学者の如く、その学問や物事を深く理解せよとは言っていません。浅瀬から少し、先に行った、足が付く位の水深でも、自由に泳げるわけですから。物事を理解する事で初めて、泳げるようになった日の感動を思い出したりするかもしれません。